

愛知医学校卒業生藤野厳九郎 と教科書

藤野 恒 三 郎

魯迅の作品・藤野先生（一九二六年発表・一九三五年和訳初出版）がなかったならば、藤野厳九郎（一八七四—一九四五）は、血縁者の間に限定されて話題にのぼる人でしかない。魯迅の文章「人は文によって伝わる……」を思い出しながら、名古屋時代の藤野厳九郎と、彼の残した医学参考書を紹介する。

生地は、福井県坂井郡本荘村下番、現在の芦原町下番である。厳九郎生誕の地に記念碑がある。

父升八郎は小石元俊の究理堂と緒方洪庵の適塾に学んだ人。母ちくは、近村の人。二人の兄と一人の姉があった末子。坂井郡第十四区小学校公立平章小学校（三国町）から福井県立福井中学校に入学。中途退学して愛知医学校に入り、明治二十九年（一八九六）に卒業した。月俸五円也の助

手から、年俸四百八十円也の教諭まで、愛知医学校の人であった。明治三十三年（一九〇〇）休職のあと退職。

東京に赴いて、東京帝国大学医科大学の田口和美・大澤岳太郎のもとで修学、その推薦によって、仙台医学専門学校講師となり（一九〇一）、後に教授。

大正四年（一九一五）、東北帝国大学医科大学開設、ために辞職。大正五年郷里に帰って開業医となつて、昭和二年（一九四五）、終戦の少し前に病没。

愛知医学校生徒厳九郎を知る人の話を、直接聞いたことが、ただ一回だけある。本人の談は、幾度か聞いている。生徒厳九郎が用いた解剖学と臨牀診断学の本を折にふれて私は精読する楽しみをもつ。かなり多くの書き込みがある点が面白い。その他、ゆずられた本を紹介することにす

（神戸学院大学薬学部）